

# 研 究 紀 要

## 進 路 指 導 部 会

第48回青森県高等学校教育研究会進路指導部会研究大会

全体講演 「アントレプレナーシップ教育とキャリア教育」

武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部

学部長・教授 伊藤 羊一 …… 1

[第1分科会 (進学指導) ]

研究発表① 「本校の進学指導について」

青森県立八戸高等学校 進路指導主事 小泉 聡 …… 6

研究発表② 「進路多様校における進路指導」

青森県立野辺地高等学校 進路指導主事 熊谷 明子 …… 11

[第2分科会 (就職指導) ]

研究発表 「就職に対する意識付けと本校の取り組み」

青森県立弘前工業高等学校 進路指導主事 安田 清人 …… 14

部会の動き…………… 20

研究テーマ…………… 22

紀要編集委員 堀 籠 充 (青森県立八戸東高等学校)

# 進路指導部会

## 全体講演

### 「アントレプレナーシップ教育とキャリア教育」

武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部長  
Musashino Valley 代表

伊藤 羊一 氏

#### 【アントレプレナーシップ教育とは】

「君はどうしたいんだ？」を問いかけ続けるのがアントレプレナーシップの教育の要諦である。自分の想いを形にする手助けをする。今日は、「こうしたら良いよ」という話はほとんどしない。話が終わった時に、アントレプレナーシップの大切さをわかってもらえれば良いと考えている。

アントレプレナーシップ教育は「君はどうしたいんだ？」という問いに尽きる。キャリア教育も同じだ。アントレプレナーシップは直訳すると「起業家精神」だが、起業する人だけのものではない。人はすべからず持っているべきではないかと考えている。では、どうすればそれを教えることができるのか。教えることはできないと思っている。自分も教える自信は無い。『月刊高校教育』4月号、5月号の記事「アントレプレナーシップは教えられる!？」に詳しく述べているので、そちらを参照してほしい。

#### 【経歴】

現在は、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部を創って、学部長をしている。銀行に14年勤めたあと、文房具メーカーのプラスに移り、今から10年前にヤフーに転職した。銀行時代26歳の時にメンタルをやられ会社に行けなくなったところがスタートで、楽しく仕事をして社会の中で実績上げるにはどうするかを本に書いたりして30年間培ったものをお伝えしている。自分が苦勞してきたことで他の人には苦勞しないで欲しいという思いでやっている。私が書いた本は全て実体験から書いている。私は生きているのさえ辛かったが、その中で学んだコミュニケーションの取り方とか、成長していくための振り返りの方法、チームの作り方などといった、自分が体験してきたことをノウハウにすることが仕事だ。自分の人生はどうなっているのかと思う人に自分を解放して元気になって欲しい。

#### 【問題意識1：世界はどんどん変わる】

なぜアントレプレナーシップが必要なのかというお話をします。

人間の暮らしはテクノロジーで大きく変わるものである。1900年のニューヨークと1913年のニューヨークとではお祭りに行く道路の状況がまるで違う。1900年に道を走っているのは馬車だ。1913年には、自動車に取って代われ、馬車など1台もない。それは1907年にフォードがT型フォード自動車を発明してそれが一気に広まったからだ。2005年と2013年ではローマ法王を迎える人々の状況がまるで違う。iPad、iPhoneが発売されてから、それらで写真を撮影してSNSでシェアする文化が生まれた。目の前でローマ法王を見るより写真を撮って皆に自慢することの方が重要になった。

それは、ハードが生まれ、ソフトが生まれ、人々の生活様式が変わったということだ。

自分自身の体験を紹介する。2020年コロナの最初の緊急事態宣言で全国の小中学校全部を休みにすると安倍総理(当時)が発表し、大学はオンラインで授業することになった。その時、あまりIT技術に慣れていない先生に頼まれてZoomでの使い方を教えたら、すごく便利だ、ということになった。そして、全国の大学の先生や小中高の先生方がすご

#### 世界はテクノロジーの力でどんどん変わる



1900 NY

1913 NY

く困っているので教えてくれと頼まれて、急ぎだというので5日後にカンファレンスを企画し、SNS上で参加を呼びかけた。無料の参加チケットを配ったら300枚が30分でなくなり、1000枚に増やしたがそれも5時間でなくなった。オンラインイベントには、幼稚園、小、中、高、大学の先生方が1000名集まり成功した。よく考えると1000名集まるイベントがわずか5日間の準備でできてしまったということだ。そんな大層なテクノロジーも使っておらずTwitter、Zoom、Peatixと気合いで出来た。最初は1000人が参加できるアカウントなど持っていなかったが、Zoom本社に掛け合ってくれた人がいて感激した。こういう風に簡単なテクノロジーを使い、想いを持ってやると大きなことができる。これがアントレプレナーシップということだと思う。

今はチャットGPTが仕事に色々使える。本当にすごいものだ。私は現在大学の授業はチャットGPTを使って用意している。倫理観についての授業をしているが、今年の授業を始める前に、「学生が活気づくように」、「7回の講義で」と条件を付けると、授業を設計してくれた。ケーススタディとして「工場長の不正」など具体的に提案してくれる。チャットGPTに全てを任せるわけではないが今はパートナーとして欠かせない。またレポートの採点にも使っている。書かれたものに目を通すのは大変で、30人なら読むのに丸1日かかる。ChatGPTに、「ざっと読んで1番良さそうなものを10点とする」と条件を付けると、他のレポートをチャットGPTが採点してその理由も添えてくれる。確信はないのでまだトライアル中だが、ある程度ふるいにかけることはできる。しかし生成AIはまだ未熟で6人会議している画像を指定すると7人いるのに、テーブルの下には6人分の脚しかないような画像を作ったりする。

この後、やって来ると思われるテクノロジーはインターネットが外に出るIoT (Internet of Things) だろう。全てのものがインターネットにつながる。料理しようとする冷蔵庫が足りない食材を教えてくれる。PayPayなどの電子決済もIoTの例だ。農業分野だと、センサーを置いて日照量をスマホに送り、それを見て水門をスマホで開けるなど、色々なことができる。オンラインで講演していると顔が見えない時がある。そのような時でも、椅子や机をインターネットにつなぐと、聴衆の挙動をセンサーにより把握し、その講義に対する聴衆の集中度がわかる。さらには、部屋の空調とも連動させると、エアコンの温度や送風を講師側で調整することで聴衆の眠気を覚ますこともできる。

このように色々なことが自由にできるようになるということは、これからは自分で問いを立てて、自分達がやりたいことを決め仕事を創っていく世界になるということだ。今までと違い、工場がなくてもお金が無くても自由にできるようになる。ハードルが極端に下がって自分のやりたいことを自由にできるようになる。

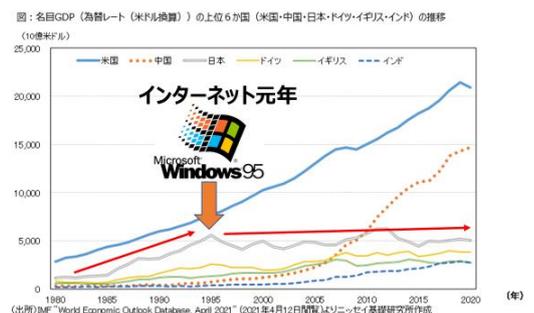
## 【問題意識2：経済・社会の変化】

日本の現状は「失われた30年」と呼ばれたり、オワコンと言われたりする。自民党の総裁選があったが、誰が首相になっても世の中あまり変わることが期待できない。政権を担う政党が変わっても同じことだ。人口が増え経済成長した時代もあったが、今は人口が減り始め、何もしないと売り上げは減る。厚生労働省の出している人口予測を見ると、現在の日本の総人口は1億2000万人だが、40年後には9000万人になる。「異次元の少子化対策」をしてもあまり変わらない。しかも、シニア層はあまり減らないが、生産年齢層が今の6割になる。この状態を何とかしないとイケない。

それに加えて「失われた30年」である。バブル期は世界の企業トップ10のうち7社が日本企業だったが、現在はゼロである。トップ50社についてもバブル期には32社が日本企業だったが、現在はトヨタがいるだけだ。日本の国際競争力は30年前には世界1位だったが、現在は37位になっている。これが「失われた30年」の真実である。

続いて、GDPの推移をみるとアメリカの成長と中国の成長が著しい。日本のGDPはアメリカのGDPの4分の1で、中国の3分の1。ドイツ、インドに抜かれ来年には世界第5位になる。日本のGDPは1995年までは成長していたが、それ以降はピタリと伸びが止まっている。1995年はバブル崩壊の年だが、ウインドウズ95発売の年でもある。インターネット元年を持って日本経済は終わったと言える。

## 分岐点は1995



1995年以降、テックジャイアントと呼ばれる企業がアメリカで生まれたが、日本では生まれていない。それらの企業は、個人の妄想、つまり「君は何をしたいんだ？」を形にしたものだ。フェイスブックのマーク・ザッカーバーグがハーバード大の女子学生全員と友達になりたいと思い、女子の写真帳をハッキングして載せたのがFacebookの始まりだ。ジェフ・ベゾスが、自宅がウォールマートから遠いから商品を届けてくれたらうれしいな、と妄想して実現したのがアマゾンである。日本はそういう妄想を育てる努力をしてきただろうか。「そんなの無理だ」と言われることを実現したのがアメリカの企業だ。

1995年以前はタテの社会、それ以降はヨコの社会と私は呼んでいる。以前は車や冷蔵庫などクオリティの高いものを大量生産していた。今では、QRコード決済とかインターネットでの天気予報やニュースといったものが大きな収益を産んでいる。昔は正解があった。つまり、机はこういうものだ、イスはこういうものだ、という正解があった。自動車は100年経っても基本的な形は変わってない。正解があるものを改善しながらやっていたのが昔の社会だ。今まで我々が受けて来た教育は、そのような社会で画一的にうまく働ける人を育ててきた。教え込まれて正解を言うことが大事だった。会社でも自分の意見を言うと、「おまえの意見は聞いていない」と返された。それに対し、今は「君はどう思うんだ？」と上司から聞かれる。教えて育てるより、対話と議論が大切になってきたのだ。正解はないのだから、一人ひとりの意見を聞き、その意見はどれもいい、ということでないといけない。個人が自分の想いを出していく。そこでは、対話しながらそれぞれ異なる意見をさばける人が大切になっている。自分の想いを外に出すということが、まさにアントレプレナーシップなのである。

**世界の時価総額ランキング**

1989年			2023年	
企業名	時価総額 (億ドル)	順位	企業名	時価総額 (億ドル)
NTT (日本)	1638	1	アップル (米国)	2兆 6090
日本興業銀行 (日本)	715	2	マイクロソフト (米国)	2兆 1460
住友銀行 (日本)	695	3	サウジアラビアン オイル(サウジアラビア)	1兆 8931
富士銀行 (日本)	670	4	アルファベット (米国)	1兆 3302
第一勧業銀行 (日本)	660	5	アマゾンドットコム (米国)	1兆 584
IBM (米国)	646	6	エヌビディア (米国)	6860
三菱銀行 (日本)	592	7	パークシャー ハサウェイ(米国)	6756
エクソン (米国)	549	8	テスラ (米国)	6564
東京電力 (日本)	544	9	メタ・プラットフォームズ (米国)	5494
ロイヤル・ダッチ シェル(英国)	543	10	ビザ (米国)	4753

**10位中、7社は失われた30年 → 日本でトップはトヨタで39位**

※ダイヤモンドオンライン、ブルームバーグからみずほ証券作成  
1989年は12月31日、2023年は3月31日時点。銀行名は合併前の旧行

### 【アントレプレナーシップの必要性】

本学アントレプレナーシップ学部は2021年4月に開設し、来年、最初の卒業生が出るが、当初はなかなか文科省から新設の認可が降りず、入試が一回中止になったことさえあった。そういう意味では、一期生が良く集まったな、と思っている。岸田総理が「スタートアップ元年」「アントレプレナーシップ教育」を口に出してから風向きがガラッと変わった。

アントレプレナーシップを私達は「高い志と倫理観に基づき、失敗を恐れずに踏み出し、新たな価値を創造して行くマインド」と定義している。志があっても倫理観が無いものが社会に存在してはならない。新たな価値を創造していくときは必ず失敗する。新しいことをする時に失敗しないのできるものがあるだろうか。自転車やピアノ、ギター、スポーツでも最初から出来る人はまずいない。新しいことをできるようになるには失敗を許容するというのがアントレプレナーシップの大前提である。

「新たな価値は要るのか？」という問いもある。たしかに、今あるものを守っていくのも大事だ。しかし、大げさに言うと、新たな価値を生み出さないと日本が沈没してしまう。青森県は県外に出ていく若者の割合が高いと聞いた。若い人が一時県外に出て行っても戻って来るためには地元で新しい産業を生み出さないといけない。すぐにできるわけではないが、このような活動を根付かせていかないといけない。そのためには起業家だけが必要なわけではなく、会社員も役所の人もNPO職員も学校教員も必要だ。アントレプレナーシップは皆に必要なマインドである。日本のアントレプレナーシップレベルは大変低く、世界で26位である。これでは新しいマインドは生まれえない。これをどうにかしないと考えると考えている。

### 【武蔵野大学アントレプレナーシップ学部の教育】

では、私たち武蔵野大学ではどう考えているのかを話してみたい。私たちの大学の特徴をあげると、

- 1 授業の中で実際に起業したりビジネスをしたりしている（実践中心のカリキュラム）
- 2 教員のほとんどが現役実務家で、授業で実践している
- 3 1年生は全員寮で学ぶ

ということになる。1つめの実践中心のカリキュラムだが、要は想い、マインドセットである。授業の中で起業をすれば、必ず失敗したり迷惑をかけたりする。その場合は教員が外に謝罪にでかけている。大学が責任を持つということだ。

2つめの現役実務家が教えるというのは、学部を立ち上げるときに、自分の友人に声をかけたらそうなったということだ。3つめの寮だが、学生はそれが非常に大きいと言っている。

倫理観はある程度教えられるが、自分はこうしたい、というマインドセットは教えられない。自分で考え、内省して、対話してもらうしかない。寮での話し合いの中で自分の想いを言語化できていく、また他人の考えを知ることができる、そういうことをひたすらやっている。

スキルも色々教えている。簿記やコミュニケーション、テクノロジーなどだ。インタラクティブ（双方向的）な授業でクリティカルシンキングも教えている。ビジネススクールでやっているような、プロジェクトを進めていくスタイルで、一方的に「これが正解である」と伝えることはほとんどなく、教員はコーチングに徹している。例えば、リーガル基礎では、世界の風変わりな法律を調べさせたりしている。アメリカ南部の州では、消火栓にワニを縛っておいたら罰金を払わされる、という法律がある。それはかなり奇妙な法律に思われるが、そこから法律とはそもそも何のためなのか、ということを生徒たちは話し合う。このように知識を覚えるための学習でもインタラクティブにやっている。授業の10%はインプットに割り、90%はインタラクティブに行っている。個人にとって大事なことは過去の経験から来ているので、自分の人生を振り返ってライフラインチャートを作って話し合うと大変盛り上がる。その他にも、インターンシップやアジアの国に行ったり、カンファレンスに参加させてもらったり、毎週起業家を呼んで講義をしてもらったりしている。

### 【アントレプレナーシップの育て方】

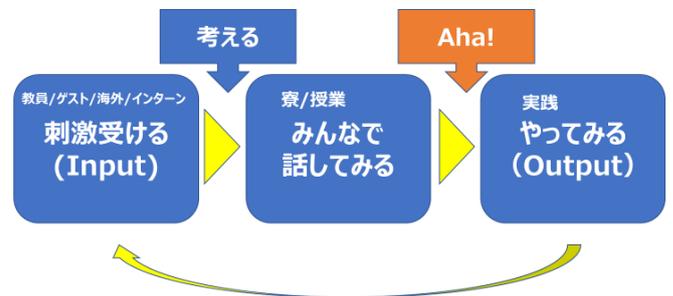
さて、大学の話を一般化すると次のようなことになる。まず、刺激的なインプットを与えることが大事だ。そして、何かしらA-ha（なるほど）と気づいたら、何かしらやってみる。商品開発でも試作品でいいから実際に売ってみるのがよい。商業高校や農業高校で、商品や作物を売るなど実際にやってみると生徒の説得力が全く違ってくる。

「地頭が良い」という言葉を使う人がいるが、持って生まれた能力の差は誤差の範囲である。何かに目覚めるかどうかは、人の資質の問題ではなく、行動の差である。自分でまず考えて、それを皆で話す。話しまくることが大事。これは黄金のルールだと思っている。寮は何でよいかというと、夢を語れるからだ。「みんなで夢を話す、夢に基づいてやってみる、気があったらやってみる」という積み重ねが未来を作る。「話す」「やってみる」が大事なのだが、特に「やってみる」が大事だ。

実際、学生達は色々なことをやり始めている。その一つが「あの夏を取り戻せプロジェクト」だ。コロナ禍の中で中止になった高校野球全国大会の出場校が集まって甲子園で草野球をした。これは一期生がプロジェクトリーダーとして実現したものだ。夢を持ち、振り返り、気づいて、やってみる。この繰り返しで成長になる。同じことをやっても、振り返り続けると大きな差が生まれる。そして、その活動をサポートするのが教員だと考えている。もう一つ大事なことは夢を笑わないことだ。皆が自分の夢を語り、行動に踏み出す環境になっていないといけない。

皆さんも私たちと同じ問題意識を持ち、それをどうにかしなければいけないと感じているはずだ。皆さんと一緒にアントレプレナーシップ教育を作っていきたい。ノートパソコンの生みの親アラン・ケイは「未来を予測する最良の方法はそれを作り出すことである」と言っている。「そんなの無理だ」と思っても、作っていくと進んでいく。皆さんと一緒に未来を作っていきたい。

### つまりこういうことか仮説



【質疑応答】

質問：弘前中央高校 寺山 明哲

タフな生徒を育てたいと考えているが、今の生徒は周囲から守られていて失敗することが少ない。生徒が苦しんでも失敗しても、教員がサポートをするには、どのように接すればよいか。

応答：辛い思いはしない方が良く、小さい失敗で済むよう手配するのが良い。つらい思いをしている生徒とは徹底して1対1でただただ対話する。ジャッジせず質問しながらただただ聞く。話すうちに自分で考えが整理できていたりする。教員の負担は一時的には増えるが、1対1のコミュニケーションは欠かせない。学校の中で何ができるか考えると良いと思う。

質問：百石高校 木村 育

話すことがすごく大事と話されていたが、学校で対話の文化を根付かせるように学校全体で行っていくにはどうしたらよいか。

応答：ポイントは二つある。一つは話すこととは何かに対する共通の見解を持つことだ。思考の断片を文章にしたり絵にしたりするのは大変であり技術が必要だ。話すのが一番簡単だ。頭の中にあるカオスを言葉にして出す時点で思考が構造化される。

二つ目は「こう言ったら間違いだ」、とか「どう思われるか」とか思わないで話せる機会を作ることだ。全員が1分で自己紹介を3回繰り返す。それに対して周りが「いいね」と言ってあげる。そうすると誰でも確実に話せるようになる。人は根本的に話したい生き物だ。日本の社会を元気にするために必要なのは話す機会を増やすことだと思う。

# 【進学系分科会】

## 研究発表①

### 「本校の進路指導について」

青森県立八戸高等学校 小泉 聡

#### 1 学校概要

【沿革】明治26（1893）年創立（昨年度 創立130周年）

【学級数】普通科各学年6クラス 2, 3年で文理に分かれる（各3クラス）

【授業】50分授業 週34単位（月から木 7コマ 金のみ6コマ）

##### (1) 綱領・・・本校教育活動の中心

<ul style="list-style-type: none"> <li>一 須ク自重スヘシ</li> <li>一 唯本文ニ向ツテ猛進セヨ</li> <li>一 師ヲ敬シ友ヲ愛セヨ,</li> </ul>
--

##### (2) 教育目標

「未来へ向け叡智を育む八高」－「守」「破」「離」高い志を備えた逞しい人材の育成－

【学校経営の柱（グラデュエーション・ポリシー）】

- ① 基礎から発展までの確かな学力の育成
- ② 考えを整理し、伝え、深めていく力の育成
- ③ 人とつながり、新たな価値を生み出していく力の育成

##### ○校風等

・文武両道    ・質実剛健    ・自主自立    ・八高魂（どんな逆境も跳ね飛ばす粘り強さ）

##### (3) スクールミッション

教育活動全体を通して、たくましく未来を切り拓こうとする心や協働する心を養うとともに、解決困難な課題に取り組む教科等横断的な学びを推進し、探究心と創造性を育み、夢の実現に向けて学び続ける高い志を持ってグローバル社会をけん引する人材を育成します。

##### (4) 令和6年3月卒業生の進路状況と過去5年間の主な進路実績（延べ合格者数）

進路種別			卒業生数		
			男子	女子	合計
			100 ( 119 )	119 ( 117 )	219 ( 236 )
進学者数	大学	国立	58 ( 77 )	51 ( 67 )	109 ( 144 )
		公立	1 ( 5 )	16 ( 14 )	17 ( 19 )
		私立	22 ( 20 )	32 ( 23 )	54 ( 43 )
	短期大学	国公立	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )
		私立	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )
	専修・各種学校		0 ( 0 )	0 ( 1 )	0 ( 1 )
	文部科学省所管外学校		1 ( 2 )	0 ( 0 )	1 ( 2 )
外国の大学短大		0 ( 0 )	1 ( 0 )	1 ( 0 )	
再チャレンジする生徒の数	予備校	県内	1 ( 1 )	2 ( 0 )	3 ( 1 )
		県外	12 ( 13 )	12 ( 6 )	24 ( 19 )
	自宅		3 ( 1 )	1 ( 3 )	4 ( 4 )
就職者数	県内		0 ( 0 )	1 ( 0 )	1 ( 0 )
	県外		1 ( 0 )	0 ( 1 )	1 ( 1 )
	未定		1 ( 0 )	3 ( 2 )	4 ( 2 )

## 本校の過去5年間の主な進路実績（のべ合格者数）

（過年度生については判明分を掲載）

大学	令和6年			令和5年			令和4年			令和3年			令和2年		
	現	過	計	現	過	計	現	過	計	現	過	計	現	過	計
北海道大	1		1	1	1	2	6	1	7	6		6	1		1
弘前大	14		14	21	3	24	19		19	21	1	22	20	1	21
東北大	27	4	31	37	4	41	40	5	45	34		34	34	6	40
筑波大				2		2	1	1	2	3		3		1	1
千葉大	10		10	7		7	5		5	7	1	8	4		4
東京大		2	2	7		7	4	2	6	3	3	6	1	2	3
東京工業大	1		1				1		1	1		1	1		1
一橋大							1		1		1	1			
新潟大	6		6	4		4	4		4	3	1	4	3	1	4
京都大					1	1	2		2				1	1	2
大阪大					1	1	1		1				2		2
九州大				1		1									
国立大 合計	119	9	128	148	12	160	163	12	175	141	12	153	127	20	147
公立大 合計	21		21	24	0	24	26	4	30	16	1	17	28	4	28
自治医科大	2		2		1	1	1		1	1	1	2	1		1
慶應義塾大	1		1	4	1	5	2	3	5	4	1	5	2	3	5
中央大	9	1	10	11	1	12	15		15	38	2	40	15		15
東京理科大	6		6	8		8	9	2	11	5	2	7	9	2	11
明治大	6		6	6		6	4		4	7	2	9	4		4
早稲田大	6		6	3		3	3		3	8	1	9	3		3
私立大 合計	245	2	247	192	5	197	246	9	255	260	17	277	203	48	251

## 2 進路指導部基本方針

綱領に則り、高い志を持ち、知・徳・体の調和のとれた心身ともにたくましい人間を育てるために、将来を見通した一貫性のある進路指導（キャリア教育）を展開する。

- 生徒支援あつての進路指導
- 授業研究・改善，入試問題の研究に努める（東北大の入試に対応できるレベルの授業）
- 授業（課題）→定期考査・校内模試の作題→採点・分析→授業 のサイクルの確立

## 3 進路指導計画

### (1) 進路指導委員会（定例全5回）

【基本方針】 全校に関わる進路指導を検討し、職員会議等に提案する。

- ①各学年・教科の進路指導が円滑にできるように検討・協議する。
- ②進路指導に関わる行事や研修の確認・提案及び成果の蓄積を行う。

【主な検討事項】

#### ①第1回（4月）

- |                                    |                    |
|------------------------------------|--------------------|
| ア 進路指導費について                        | イ 模試監督・講習費について     |
| ウ 既卒生の本校での模試受験について                 | エ 教員研修について         |
| オ 県の事業「医師を志す高校生支援事業」について           |                    |
| カ 重点校における事業について                    |                    |
| キ 進学力を高める高校支援事業「最難関大学志望者合同学習会」について |                    |
| ク 年末・年始の校舎使用について                   | ケ 指導目標達成への取り組みについて |
| コ キャリアパスポートの運用について                 |                    |

#### ②第2回（6月）

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ア 指導目標への取り組みについて | イ 教員研修について     |
| ウ 校内推薦委員会について    | エ 夏期講習について     |
| オ 医学科指導について      | カ 3学年進路検討会について |

#### ③第3回（10月）

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| ア 指導目標への取り組みについて | イ 既卒生激励会について     |
| ウ 特編授業・冬期講習について  | エ 次年度模試・講習計画について |
| オ 「情報」への対応について   |                  |

④第4回〈12月〉

- ア 次年度模試・講習計画について  
イ 二次対策特別講習について  
ウ 「最難関大学志望者合同学習会」について

⑤第5回〈2月〉

- ア 今年度の総括について  
イ 次年度の取り組みについて  
ウ 進路反省会（Ⅰ部・Ⅱ部）について  
エ 春期講習について  
オ 県の事業について  
カ 「最難関大学志望者合同学習会」について

\*これとは別に定期的に進路指導部と各学年進路担当教員との打合せ（進路ミーティング）の時間を設ける。各学年の状況と進路的取り組みの情報共有、支援をすることが目的である。

(2) 3年・進路合同会議（定例全3回）

【目的】 受験指導・手続きの円滑化を図る。

【主な検討事項】

- ①第1回〈6月〉ア 弘前大医学科総合型選抜、東北大AOⅡの指導の流れの確認  
イ 進路検討会の内容  
ウ 夏期日程  
②第2回〈9月〉ア 共通テスト出願関係の詳細な打合せ  
イ 調査書関係  
③第3回〈11月〉ア 『受験の手引き』による出願手続きの確認

\*このほかに、進路指導部から学年打合せに毎朝参加し、情報共有を図る。

(3) 3年進路検討会（定例全3回）

【目的】 東大・東北大・医学科を中心とした生徒の状況を共通理解することで、各自の志望達成に「何が足りないか」と「今後の指導の方向性」を授業担当者が確認する。また、各担任が教科の課題を把握することによって、その後の面談に活かす。さらに生徒の情報交換を通じて学年の指導を支援する。

- ①第1回〈7月〉各社研究会の報告と生徒の志望検討、夏に重点的に取り組むべきことの確認、三者面談に向けての情報収集  
②第2回〈12月〉東大・東北大・医学科を中心に、個々の志望に対して授業担当者がアドバイス  
③第3回〈1月〉大学入学共通テスト自己採点の結果と校内外の資料を基にした2次出願の最終検討

\*2年の検討会については12月初旬に実施

(4) 平常講習（1・2年生は行わない。3学年が独自に計画を立て実施する）

- ①高校総体後（6～7月）第Ⅰ期 6日間（80分）英数国の設定分野から2科目選択（1科目2日間）  
②特編授業まで（8～11月）第Ⅱ期・第Ⅲ期 計30日間（50分×2）文理それぞれ地歴公民、理科中心

(5) 夏期・冬期講習（学年毎に計画を作成、時間調整などを進路が担当）

【目的】 1・2年生は学習意識を喚起し、明確な目標のもとに基礎力の醸成を図る。

3年生は本格的な受験勉強のリズムを整え、受験体力を養う。

全学年とも全員参加を基本とする。原則として土・日には設定しない。

- ①夏期講習 1年： 9日間（国・数・英） 2年： 9日間（国・数・英・化）  
3年： 15日間（全教科科目）  
②冬期講習 1年： 9日間（英・数・国） 2年： 9日間（英・数・国・理）  
3年： 6日間（全教科科目）

(6) 講演会（学年が要望、講師選定をし、進路指導部が依頼、サポートを行う）

【目的】 学年の発達段階に応じた啓蒙を行い、モチベーションを高める。

- 3年生 6月 全員対象講演会 8月 小論文講演会  
9月 東大志望者対象講演会 10月 東北大志望者対象講演会  
11月 全員対象講演会  
2年生 8月 全員対象講演会 12月 全員対象講演会  
1年生 9月 全員対象講演会 2月 全員対象講演会

(7) 大学別志望者集会 (進路指導部・3学年)

【目的】安易に志望したり、志望を下げたりすることを避け、志を固めるため

- ①弘前大学医学科総合型選抜志望者集会および説明会      ②医学部医学科集会  
③学校推薦型・総合型選抜志望者集会      ④東北大学AO志望者集会

(8) 医師を志す高校生支援事業 (三八・上北地区の拠点校)

【目的】地域の多くの高校生が医師への志を育み、医師をめざすために必要な学力の定着を図る。

- 1年生対象 (ウィッシュプログラム)      4日間  
2年生対象 (ステップアッププログラム)      6日間  
3年生対象 (ファイナルプログラム)      2日間

\*県の事業として医療チュートリアル (自治体病院とへき地診療所の施設見学, 医療体験, 医師との交流) がある。

(9) 最難関大学志望者合同学習会

【目的】青森高校・弘前高校・八戸高校を中心とした最難関大学を志望する生徒に学習会を行うことで、高い志を持つ生徒の学力の伸長を図り、また同じ志を持つ生徒同士が参加することで、切磋琢磨し合いながら進路志望をともに実現しようという意識を高める。また、教員も講習会に参加することで、教科の指導力を高め、本県高校生の学力向上につなげる。

- 第1回 令和6年 7月20日 (土) ~ 21日 (日)      主担当: 八戸高校  
第2回 令和6年 12月14日 (土)      主担当: 青森高校  
第3回 令和7年 3月15日 (土)      主担当: 弘前高校

(10) 小論文・面接指導 (進路指導部が計画)

【目的】学校推薦型・総合型選抜を志望する生徒に対して全教職員で個別指導を行う。

- 第I期 弘前大学医学科総合型選抜対象 面接指導  
第II期 東北大AOⅡ期・公募制推薦・指定校推薦・弘前大総合型選抜対象 小論文・面接指導  
第III期 東北大AOⅢ期・共通テスト利用学校推薦型・総合型選抜その他 (自治医大等) 対象  
小論文・面接指導  
第IV期 国公立大前期対象 小論文・面接指導  
第V期 国公立大後期対象 小論文指導

(11) 春期講習 (1・2年生が計画して、進路がサポート) 基本4日間

(12) 土曜活用 (1・2年生が計画して、進路がサポート) 外部模試中心

(13) 外部模試 (各学年の計画による) 2日間の場合は原則「金曜・土曜」実施

(14) 卒業生の協力

- ・東大オープンキャンパスでの本校卒業生との座談会 (進路指導部計画)
- ・東北大学の魅力を本校卒業生がプレゼン (進路指導部計画)

(15) 既卒生対応 (進路指導部の計画による)

予備校との情報交換を密にし、状況の把握に努め、志望達成に向けて支援する。自宅で学習する既卒生とは進路指導部と常に電話・メールで繋がっている。また、校内での模試受験の機会を設ける。

- 4月 八戸市内既卒生激励会①      7月 八戸市内既卒生激励会②  
9月 東京・仙台方面既卒生激励会

(16) 合格体験報告（進路指導部と学年）

合格した卒業生6名程度による在校生に対する報告会を3月に開催する。また、年度が改まった4月に『先輩からの提言～大学受験体験記～』を作成し、配付する。

(17) その他

- ・課題は週初めに配付し、学年が一覧を作成するなど生徒が計画を立て実行できるよう工夫する。自主的に学習できるよう課題の量などを調整する。
- ・3学年の講習実施科目は、学年と教科の話し合いで効果的なものを提供する。
- ・学校推薦型・総合型選抜合格者には卒業研究を課し、2月に発表会を実施する。内容の濃い研究をめざし、優秀者数名は2年生全員を対象に自分の研究を発表する。
- ・教員も積極的に研修できる機会を設ける。（東大・東北大・医学科・小論文など）

4 今後の課題

これまでの本校の指導は平常講習、二者面談等、非常に時間と労力を必要とするものが多く、教職員の自己犠牲の精神によって支えられてきたが、時間外勤務を強いる形になってしまっている。来年度以降、業務改善に努めていかなければならないが、労働時間の短縮ばかりに焦点を合わせるのではなく、生徒の学力の担保も視野に入れながら、少しでも良い方向に向かうように工夫していく必要がある。

## 「進路多様校における進路指導」

青森県立野辺地高等学校 熊谷 明子

### 1 はじめに

本校の生徒数は、ここ10年で4分の1ほどにまで激減した。進路希望は、専門学校希望者が多いと言えるが、国公立大学希望者、公務員就職希望者、民間就職希望者も抱えている状況である。小規模な進路多様校では、進学・就職の両方に対応した支援を少ない教員で行わなければならない、特に担任教員は同時に様々な仕事を抱えがちで、余裕を持って生徒に向き合えないことは課題の一つと言える。本校のこのような実態を踏まえ、担任教員の負担を軽減し、進学にも就職にも有効な進路指導を行うために、進路指導部としてできることについて考察する。

### 2 進路指導部の業務の見直し

#### (1) 定期的な進路指導部会議の廃止

以前は時間割に進路指導部の会議時間が組み込まれており、この会議には、進路指導部3名に加え、各学年担任のうち進路指導係を務める教員の計6名が出席していた。ホームルームの数が多かった頃からの名残で、各学年の担任教員は2人で分担して教務部・生徒指導保健部・総合的な探究の時間等でも役割を担って各会議に出席しており、授業の空き時間自体が少ないという状況にある。これでは余裕を持って授業準備や面談の準備ができないことが予想されたため、進路指導部は定期的な会議を開くことをやめた。

定期的な会議を取り止めて3年目だが、教員が少ないこともあり、日常的に情報交換を行うことができるため、毎週会議を開かずとも今のところ支障はない。進路指導部としては、日々の電話対応や来客対応で空き時間が見込めないため、会議で拘束されないというメリットは大きい。

#### (2) 書類作成等マニュアルの作成

以前は担任教員が「進路の手引き」を頼りに書類作成を行ってきたが、進学の場合は進学のページ、就職の場合は就職のページ、というように進路ごとに確認する必要がある。進学/就職でクラスが分かれていた頃はそれで問題なかったが、現在は一つのクラスに進学希望者も就職希望者もおり、本校の現状を考えると煩雑だと言える。そこで、進学・公務員就職・民間就職を問わず、また、推薦型・総合型・一般を問わず、教員も生徒も1枚の紙を見れば進路活動の流れが把握できるようにした。また教員向けには、出願書類を作成する際のポイントや、家庭に連絡するタイミング、誰がどのタイミングで何を準備するのか等について、共通理解を持てるようなマニュアルを作成した。

毎年度更新しながらマニュアルを作成して3年目だが、マニュアルや「進路の手引き」を読むということ自体がなかなか定着せず、担任教員からの指示があるまで行動できない生徒が多いのが現実で、次年度に向けてさらに見直していく必要がある。

### 3 学年でやっていたことの進路指導部への移行

#### (1) 面接ノート作成

以前は生徒が自分でノートを用意し、受験先に応じて予想される質問事項とそれに対する回答をまとめており、その指導は学年もしくは担任教員の裁量で行っていた。しかし、生徒によってはどのような準備をして面接に臨めばよいかわからず、準備が不十分なまま試験に向かうこともあった。そこで、進学でも就職でも対応できるような質問事項を取り上げ、冊子にまとめた。生徒の回答については、担任教員が可能な範囲で添削したうえで面接練習に向かわせるという流れができつつある。

面接ノートの内容については様々な意見をもらって更新していきたいのだが、意見が得られずにいる状況である。

## (2) 個別指導用ファイルの作成及び管理

本校では、3年生の受験に向けて、面接や小論文を全教職員で分担して個別指導するという体制ができています。進路指導部が個別指導（初期指導）の担当者を割り振り、担任教員が個別指導に必要な志望理由書や推薦書、受験報告書等のコピーを準備し、担任教員が個別指導（初期指導）担当教員に直接依頼するという流れがあった。しかし、進路指導部が出願書類のコピーを保管していることから、個別指導に必要な出願書類も進路指導部が準備した方が合理的である。そこで進路指導部が、各生徒の志望理由書・調査書・推薦書・受験報告書等をひとまとめにしたファイルを用意することにした。

初年度は個別指導（初期指導）担当教員が各自でファイルを保管していたが、個人情報が多く含まれていること、また、本番が近づき別の教員が面接指導にあたる際に不便であったことから、現在は進路指導室で一括管理している。生徒の面接練習の頻度等が自然と把握できるという、予想外のメリットも感じている。

## (3) 1年生1学期の進路活動

本校の1年生は全員共通のカリキュラムだが、2年生からはⅠ型（就職）とⅡ型（進学）とで別のカリキュラムとなる。そのため1年生6月には類型選択の説明会を実施し、7月には進学か就職かだけでも決めなければならない。しかし本校には身近な上級学校がなく、生徒だけでなく保護者についても、進路選択に関する情報に偏りがある、不十分である、という課題がある。これまでも1年生を対象に弘前大学見学会は実施してきたが、実際には専門学校進学を希望する生徒が多いこともあり、この事業だけでは効果が薄いと見え、進路指導部として新たな事業を考えた。

### ① 学校見学会

企画した当初は、1年生のためというわけではなく、まずは保護者にも、就職だけでなく進学という選択肢も持ってほしいと考え、PTA対象の学校見学会を提案した。専門学校等への進学を希望する生徒が多いが、生徒は宣伝の上手な学校に飛びつきがちであり、一度心に決めると、他者のアドバイスを聞き入れることができず、別の学校と比較することなく受験まで突き進んでしまう。そこで、専門学校等を選択するにあたってどのような点に留意すべきかを、保護者自身の目で見える機会を提供したいと考えた。しかし、保護者の参加希望者は2年連続0人であり、企画そのものを見直す必要を痛感した。今年度は1年生の進路選択という点に重きを置き、1年生の進路行事として専門学校等見学会を行った。これをきっかけに、オープンキャンパスに参加しようという生徒が増えたことから、上級学校について知りたいという意欲につながることはできたと考えている。

### ② 大学出張講義

積極的に進路を選択するという意識が不十分であるため、複数の講義を提示されたとしても、生徒自身が興味を持っている講義を選択すること自体が難しい。まずは講義を受けてみて、自分がそれに興味を抱くかどうか試すという段階であると考えられる。したがって、複数の講義を1年生が全員で受講するという形式を取っている。中には大学の先生が用いる言葉を理解するのが難しい生徒、専門的な話を聴くことに対して拒否反応を示す生徒もいるが、大学での学びを体感することはできると考えている。

### ③ 職業適性検査

ジョブカフェあおもりの方に協力を依頼し、文化祭で職業適性検査のブースを設置した。所時間は15分程度で、2時間で20名が利用した。希望者のみが自由に体験する形式とし、結果をもとにジョブカフェあおもりの方が解説やアドバイスもしてくださった。生徒からは、自分の強みを知ることができた、意外な適性に気づくことができた、という感想が得られ、好評であった。

## 4 おわりに

進路指導面から担任教員の負担を軽減するために、また、進学にも就職にも有効な進路指導を行うために、3年かけて進路指導部の業務を見直してきた。学年が担ってきたものの一部を進路指導部が引き受けるようになったため、

単純に、進路指導部の業務を増やしてしまったことになる。しかし、今後も生徒数減が進むと、教員減に伴う進路指導部の人員減も予想されるため、現在と同じ業務をこなすことは難しい。学校の実情に合わせて学年／分掌の業務バランスを取り、特定の教員だけの負担にならないように配慮しつつ、生徒の多様な進路希望に対応できるような仕組みを模索し続けていきたい。

## 【 就 職 系 分 科 会 】

### 「就職に対する『意識付け』と取り組みについて」

青森県立弘前工業高等学校 安田 清人

#### 1 本校の特色

本校は明治43年に設立され、令和6年に創立114周年を迎えた伝統校である。

全日制・定時制併せて29,000名余りの卒業生を輩出し、地域をはじめ全国各地の産業界で活躍し、日本の工業技術を支えている。

本校の校訓は「品性は力なり」、「勤労は使命なり」、「常に汝の最善をつくせ」であり、この校訓を胸に勉学に部活動に励んでいる。

#### 2 本校の生徒数

現在の在籍数は表の通りであり、全校生徒数は593名（女子は84名）である。

令和6年11月1日現在

	機械科	電気科	電子科	情報技術科	建築科	土木科	計	合計
1 学年	32(1)	26(1)	35(9)	35(10)	35(7)	31(2)	195(30)	593 名 (84)
2 学年	35(0)	28(1)	33(4)	35(8)	35(13)	35(0)	201(26)	
3 学年	33(1)	34(1)	34(3)	35(4)	35(12)	26(7)	197(28)	

#### 3 卒業生の進路状況（令和4～6年度）

本校は、圧倒的に就職している生徒が多い。就職数は、毎年公務員も併せて約7割が就職しており、その内訳は、県内は約50名、県外は約80名の割合である。県外就職者の就業場所は関東が中心で製造業がほとんどである。最近では、就職が多い学科と進学が多い学科に分かれている。

##### (1) 進路決定状況

	就 職			進 学			
	県内	県外	公務員	大学	短大	職能施設	専修各種
令和4年度	48(3)	48(16)	13(1)	40(5)	1	2	11(3)
	143(20) 72.6 %			51(8) 27.4 %			
令和5年度	49(10)	79(12)	17(6)	49(11)	2	5	5(2)
	145(28) 70.4 %			61(13) 29.6 %			
令和6年度 11/1 時の希望	48(3)	83(16)	12(1)	40(5)	1	2	11(3)
	143(20) 72.6 %			54(8) 27.4 %			

(2) 求人数 (令和4年度～令和6年度) (6年度は9月1日現在)

	県内	県外
令和4年度	217 件	2,121 件
令和5年度	233 件	2,473 件
令和6年度	約 200 件以上	約 2,500 件以上

(3) 学科ごとの進路状況 (令和5年度の状況)

	機械科	電気科	電子科	情報技術科	建築科	土木科
県内	10	6	19	7	4	3
県外	12	23	11	5	15	13
公務員	1	0	0	3	1	12
四年制大学	9	2	4	13	15	6
四年大以外	2	3	1	6	0	0

(4) 主な就職企業先 (令和5年度)

主な就職企業先 (R5)	
<p style="text-align: center;"><b>県内企業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本マイクロニクス ● 青森オリンパス</li> <li>● 弘前航空電子 ● キヤノンプレシジョン</li> <li>● 荏原環境プラント ● 城東電気</li> <li>● Orbray ● 日善電気</li> <li>● 三光化成 ● エーアイサイン</li> <li>● 張山電気 ● 青森リバーテクノ</li> <li>● エーアイサイン ● 三浦組</li> <li>● 弘測コンサル ● リコージャパン</li> <li>● クボタ環境エンジニアリング 他</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>県外企業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本製鉄 ● 東日本旅客鉄道</li> <li>● 牧野フライス ● トヨタ自動車</li> <li>● ユアテック ● 住友電気工業</li> <li>● 日産自動車 ● 関電工</li> <li>● NTT-ME ● 日興システック</li> <li>● NECフィールディング ● 東北電力</li> <li>● アリガ ● 多田建設</li> <li>● 大成建設 ● 松下産業</li> <li>● 第一建設工業 ● ユニオン建設</li> <li>● NECフィールディング 他</li> </ul>

#### 4. 就職に対する「意識付け」と取り組み

本校に入学するのはいいが、卒業後どうするか考えないで入学してくる生徒が少なくない。7割の生徒が就職するのだが、仕事に就くという意識がない生徒がいる。どのような取り組みをして、就職に対する意識を持たせていくか、各科、学年と協力し合い、働きたいという気持を持たせていきたいと思って取り組んでいる。

取り組みの内容として次のようなことを実施している。

- (1) 企業見学会 (2) インターンシップ (3) 進路ガイダンス (4) 地元企業との交流会

(1) 企業見学会 (各科の見学場所)

機 械 科	弘前航空電子(株), (株)日本マイクロニクス青森工場, 弘前地区環境整備センター 他
電 気 科	東北電力八戸火力発電所, 東北電力太陽光発電所, 他
電 子 科	(株)NTT東日本宮城事業部青森支店, 富士電機津軽セミコンダクタ(株), キヤノンプレジジョン(株) 他
情報技術科	なし
建 築 科	青森消防学校, 青森市総合体育館 他
土 木 科	津軽ダム, 国土交通省東北地方整備局青森港湾事務所 他



- 生徒の感想・普段は入れないところに入り, 現場の作業をなまで見れたのはすごく感動した。
- ・教室で勉強していたことで, はるかに規模が大きくてびっくりした。
  - ・間近でみたダムの大きさにびっくりした。これを人間がつくったのか信じられないと思った。
  - ・これを作ってみたい。

(2) インターンシップ

2日間, 数名にわかれて, 企業に出向いて作業体験をする。



- 生徒の感想・高電圧と弱電圧は一緒にはいけないということを初めて知ることができました。勉強になった
- ・災害が起きて停電になった時の電気屋さんのありがたみを感じ, 電気は電気屋にしか直せないという特別感や, 直す姿がかっこいいと思いました。

### (3) 進路ガイダンス

全学年（保護者の希望のみ）

4月	進学サポート講演「マネーガイダンス」	ライセンスアカデミー
1学年		
1学期	「本校の進路状況とこれからやらなければならないこと」 (就職・公務員・進学)	進路指導部
	自己理解Ⅰ【適性検査】（タブレット使用）	リクルート
2学期	自己理解Ⅱ【解説】	リクルート
	コミュニケーションスキルアップ講座	ライセンスアカデミー
	企業PR説明会「県内企業魅力発信事業」	青森県若者定着還流促進課
3学期	分野別ガイダンス（就職・公務員・進学）	進路指導部、ライセンスアカデミー
2学年		
1学期	「働き方と収入」仮想体験ワークショップ	ライセンスアカデミー
2学期	企業と専門高校生相互理解促進セミナー 「中南地域ものづくり企業等若手人材確保事業」 【企業ガイダンス】職業観・勤労観の育成	【中南地域県民局】
	3学期	進路講演「これから何をすべきか」
	就職支援セミナー「効果的な就職活動」	【弘前公共職業安定所】
3学年		
1学期	「応募書類等及び各種手続きについて」	ライセンスアカデミー
2学期	企業と専門高校生相互理解促進セミナー 「中南地域ものづくり企業等若手人材確保事業」 【企業ガイダンス】職業観・勤労観の育成	【中南地域県民局】
	3学期	進路講演「これから何をすべきか」
	就職支援セミナー「効果的な就職活動」	【弘前公共職業安定所】

### (4) 地元企業との交流会

地元企業30社と2年生の交流会で、企業PRをしていただき、生徒からの質問を受け、働いている人の仕事に対する姿勢を強く感じてもらえる交流会である。就職に対する意識付けとしては、もっとも意識が高く芽生えていくガイダンスである。



生徒の感想・説明が非常に丁寧であり、また、会社のいいところが強く響いた。

- ・働いている人の表情、目が真剣そのものであり、自分になれるかどうか不安を感じた。

就職に対する「意識付け」の取り組みとして、外部に出向いて、企業の仕事の様子を見学させてもらい、作業の体験をさせてもらい、インターシップのように2日間ではあるが一緒に仕事をさせてもらい。また、外部から学校に来てもらい、様々な講演や講義をしてもらい、何十社の企業に来てもらい企業のPRを聞いて、生徒各自が自分の合った仕事は何か、自分がしたい仕事は何か、考える機会をつくり、就職に対する意識を高めていけるようにして取り組んでいる。

いかに数多く、企業の人達との接触を多くし、社会人の仕事に対する姿勢や考え方を感じてもらい、「卒業後は自分

がこのような大人になっていく。」という、イメージを生徒に持たせることが大切であると考えている。

## 5. 企業が求める生徒とは？

ほとんどの企業が以下の2つを言っている。

「元気のある生徒」

「コミュニケーションをとれる生徒」

特に、「コミュニケーションをとれる生徒」については、スマホの影響が大きいようである。スマホで連絡をすれば、「それでOK」といった認識が普通となっており、当たり前であると思ってしまう生徒がいる。また、企業に入社してしてから、先輩、上司に面と向かって「ハウレンソウ」ができない生徒が多くなってきていると企業側から言われている。

そこで本校では外部に依頼し、1年生から3年生に向けて段階的にコミュニケーション能力を上げていくような講座を考え取り組んでいる。約200名の学年を5～7名ずつの班分けをする。ここで大事なことは、普段会話をすることがない別クラスの生徒同士で班を作ることで、コミュニケーションを自分からとっていかれるかどうか、訓練できるようにすることが重要である。

### (1) 1学年＝コミュニケーションスキルアップ講座

講師二人が、壇上でジェスチャーのやり方を指導する。言葉は出さず、相手を見てジェスチャーだけで意志を伝えられるか。



生徒の感想・最初は、幼稚なお遊びのような感じがしたが、だんだん本気になってきて、どうしたら相手に伝えられるか考えるようになった。おもしろかった。

- ・ジェスチャーの動きだけだと思っていたのだが、以外に相手の顔を見てやらないと伝わらないことがわかった。力が入った。

### (2) 2学年＝「働き方と収入」仮想体験ワークショップ

人生ゲームのようなもので、働きながらどのように収入を得ていくか。自分がどのくらい収入を得られたら楽しいか、気分がいいか、考えてやっていた。この講座は工業系のものがなく、お願いしてつくってもらい、実施することができた。



生徒の感想・ゲームだったので、適当にやっていたが、人より稼ぎたい気持ちが大きくなった。真剣にやった。

・ゲームだけこのくらい稼ぎたいと思った。早く働きたい。稼ぎたい。

### (3) 3学年=「志望動機・エントリーシートの書き方」

就職希望生徒を対象に模擬面接のやり方とエントリーシート書き方を説明して、そのあと、班に分かれて生徒同士での模擬面接を行った。初めて会話する生徒達だが、模擬面接は就職試験に近いこともあり、真剣そのものであった。



生徒の感想・初めて会話する人で、恥ずかしいところもあったが、真剣にやらないと失礼な感じがした。

うまく言えない部分もあったが、少し自信になった。

・面接練習もっとやらないとやばいと感じた。本番ではもっと緊張する。もっと練習したい。

1年生では、慣れないこともあり、「なんのために？」という疑問を持ちながらやっている状態であった。しかし、学年をおうごとに生徒もどのように動いていけばいいのか、考えながら、行動していく様子が見えてきていた。特に3年生では、初めて会話する生徒であっても、自分の意思表示をきちんと行うことがいかに大事かを理解できていた。コミュニケーション能力を高めていくために、学校側も時間をかけても働きかけていくことがいかに大事であることが、あらためて知り今後も継続していきたいと考えている。

## 6. キャリアパスポート

本校では、キャリアパスポートが有効的に使われている。ホームルーム担任によっては、学期ごとに生徒が考査の結果、資格取得の記録、部活動の戦績、進路のガイダンスの内容と感想、三者面談の内容など書き留めていくようにしており、3年次の履歴書を書くときに、これらのことを自分で書いていくことができる。生徒が自分で記録しているので、スムーズに履歴書作成を進められるため、ホームルーム担任は非常に大事にしている。

### まとめ

入学時に目標を持ってきている生徒は、将来の進路を明確に決めているところがある。しかし、そうでない生徒もいる。卒業後どうするか、なにをするのか、周りにつられて「しかたない、就職でもするか。」と漠然と考えている生徒が多くいるのも事実である。

自分の将来を考え生きていく、進学してもいずれは仕事に就く、働くことの意義、自分自身の成長、精神的に最も成長していく高校時代に、こちらからいろいろなやり方を考え、機会をつくり、3年間で「自立」できるような取り組みをしていきたい。10代で社会に出て、荒波にもまれていくが、自分で「考え、決断し、行動し、責任をとる」。ことについて、学校にいる間に少しでも伝え、自立ができるように進路指導部でも取り組んでいきたい。

今年度の青森県高教研進路指導部会のテーマは、『生き抜く力』である。少し前までは、『生きる力』であったが、これからは『生き抜く力』が必要であるということだと思ふ。『生き抜く力』には、いろいろな要素が必要かと思われるが、7割が就職する本校では、自分から「動く」、この一点に絞って『生き抜く力』を身に付けて卒業してもらいたいと考えている。「動く」は最も基本的で当たり前のことであるが、対人間の中でこの最も大事なことを忘れてしまいがちになってしまっているのではないだろうか。自分から動いて人間関係をつくり、仕事をこなしていく能力と精神的強さを身に付けられるように進んでいきたい。

# 部 会 の 動 き

令和6年4月～令和7年3月

## 1 第1回代表者会議並びに専門委員会

5/17(金) 青森市 アピオあおもり

### 代表者会議

- (1) 令和5年度庶務報告・決算報告
- (2) 令和6年度事業計画案・予算案：原案通り承認
- (3) 役員改選 部会長：矢部 広明（八戸東高校校長） 副部会長：佐藤 努（八戸工業高校校長）  
進学指導専門委員長：大澤 洋平（八戸東高校） 就職指導専門委員長：四戸 久貴（八戸工業高校）  
理事16名（地区責任者を含む） 監事2名

**進学・就職専門委員会**：アンケート回答を元に各校で情報交換

## 2 東北地区高等学校進路指導協議会第1回各県会長・事務局長会議

5/29(水) 盛岡市 アイーナ 岩手県民情報交流センター

部会長・事務局長出席

## 3 全国高等学校進路指導研究協議会理事会

7/24(水) 東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター

部会長・事務局長出席

## 4 進路指導・キャリア教育研究協議全国大会

7/25(木) 7/26(金) 東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター

部会長・事務局長参加

## 5 第48回高教研進路指導部会総会及び研究大会

10/1(火) 青森県総合社会教育センター

参加者81名（進学系46名・就職系35名） 外部講師3名

研究テーマ 『『生き抜く力』を育む進路指導・キャリア教育の在り方』

**全体講演** 「アントレプレナーシップ教育とキャリア教育」

講師 武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部 学部長・教授 伊藤 羊一 氏

### 第1分科会（進学指導）

研究発表① 「本校の進学指導について」

八戸高等学校 小泉 聡

研究発表② 「進路多様校における進路指導」

野辺地高等学校 熊谷 明子

分科会別講演 「半径5メートルからの学び」

講師 (株)リクルート キャリアガイダンス編集長

赤土 豪一 氏

## 第2分科会（就職指導）

研究発表 「就職に対する意識付けと本校の取組」

弘前工業高等学校 安田 清人

分科会別講演 「公務員試験の今を知る ～募集の傾向と試験内容の多様化について～」

講師 S. K. K. 情報ビジネス専門学校

越後谷 晴菜 氏

### 6 東北地区高等学校進路指導協議会研究大会 岩手大会

10/25(金) 岩手県盛岡市 サンセール盛岡

事務局長参加

### 7 東北地区高等学校進路指導協議会第2回各県会長・事務局長会議

10/25(金) 岩手県盛岡市 サンセール盛岡

事務局長出席

### 8 新規高等学校卒業生就職問題会議（予定）

2/7(金) 東京都 中央合同庁舎

就職専門委員長出席

### 9 第2回代表者会議並びに専門委員会（予定）

2/19(水) 青森県観光物産館アスパム

代表者会議：令和6年度庶務報告・会計中間報告・ローテーション確認

進学・就職専門委員会：アンケート回答を元に情報交換

## 研究テーマ

紀要No.	年度	研究テーマ	会場	会員数(一・二希望計)	大会参加数	大会発表者数
54	21	‘生きる力’を育む指導はいかにあるべきか	青森県総合社会教育センター	200	113	6
55	22	新学習指導要領を視野に入れたキャリア教育の充実	八戸プラザホテル	229	会員 115 全体 175	6
56	23	『生きる力』を育む進路指導はいかにあるべきか	青森県総合社会教育センター	239	105	6
57	24	『生きる力』を育む進路指導はいかにあるべきか	青森県総合社会教育センター	226	105	6
58	25	『生き抜く力』を育む進路指導はいかにあるべきか	青森県総合社会教育センター	203	113	6
59	26	『生き抜く力』を育む進路指導はいかにあるべきか	青森県総合社会教育センター	209	110	6
60	27	『学び続ける』社会で生き抜く力を育む進路指導の在り方	青森県総合社会教育センター	209	140	6
61	28	『生き抜く力』を育む進路指導はいかにあるべきか	青森県総合社会教育センター	234	97	6
62	29	『生き抜く力』を育む進路指導はいかにあるべきか	青森県総合社会教育センター	224	94	6
63	30	『生き抜く力』を育む進路指導はいかにあるべきか	青森県総合社会教育センター	221	104	6
64	元	『生き抜く力』を育む進路指導はいかにあるべきか	青森県総合社会教育センター	223	113	6
	2	中止	-	-	-	-
65	3	『生き抜く力』を育む進路指導はいかにあるべきか	オンライン	203	83	4
66	4	『生き抜く力』を育む進路指導・キャリア教育の在り方	オンライン	187	会員 50 全体 82	6
67	5	『生き抜く力』を育む進路指導・キャリア教育の在り方	青森県総合社会教育センター	185	84	6
68	6	『生き抜く力』を育む進路指導・キャリア教育の在り方	青森県総合社会教育センター	171	81	6